

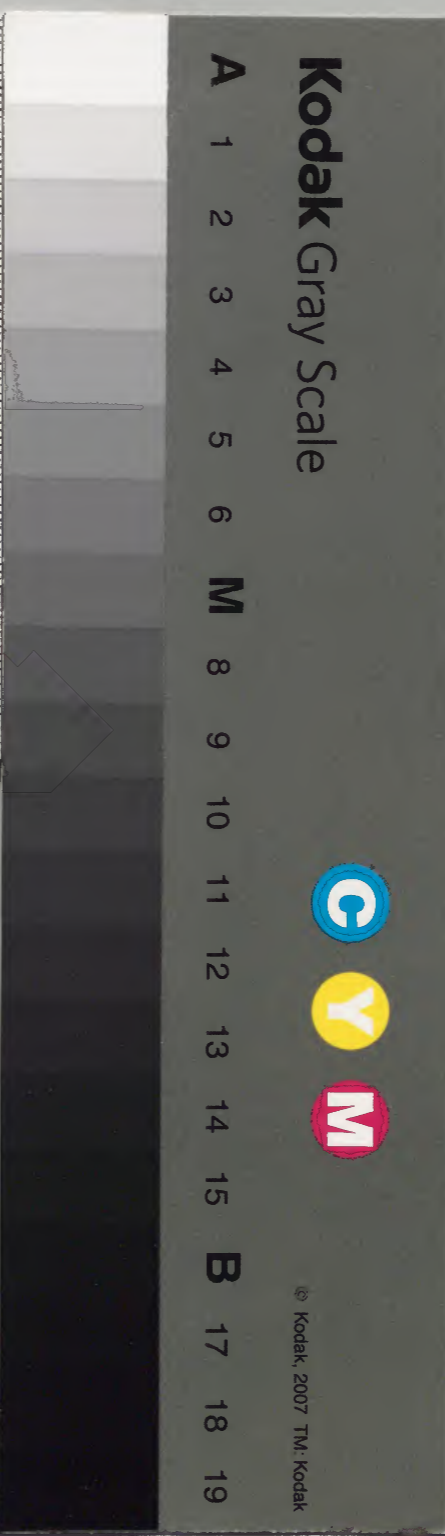
萬葉集略解

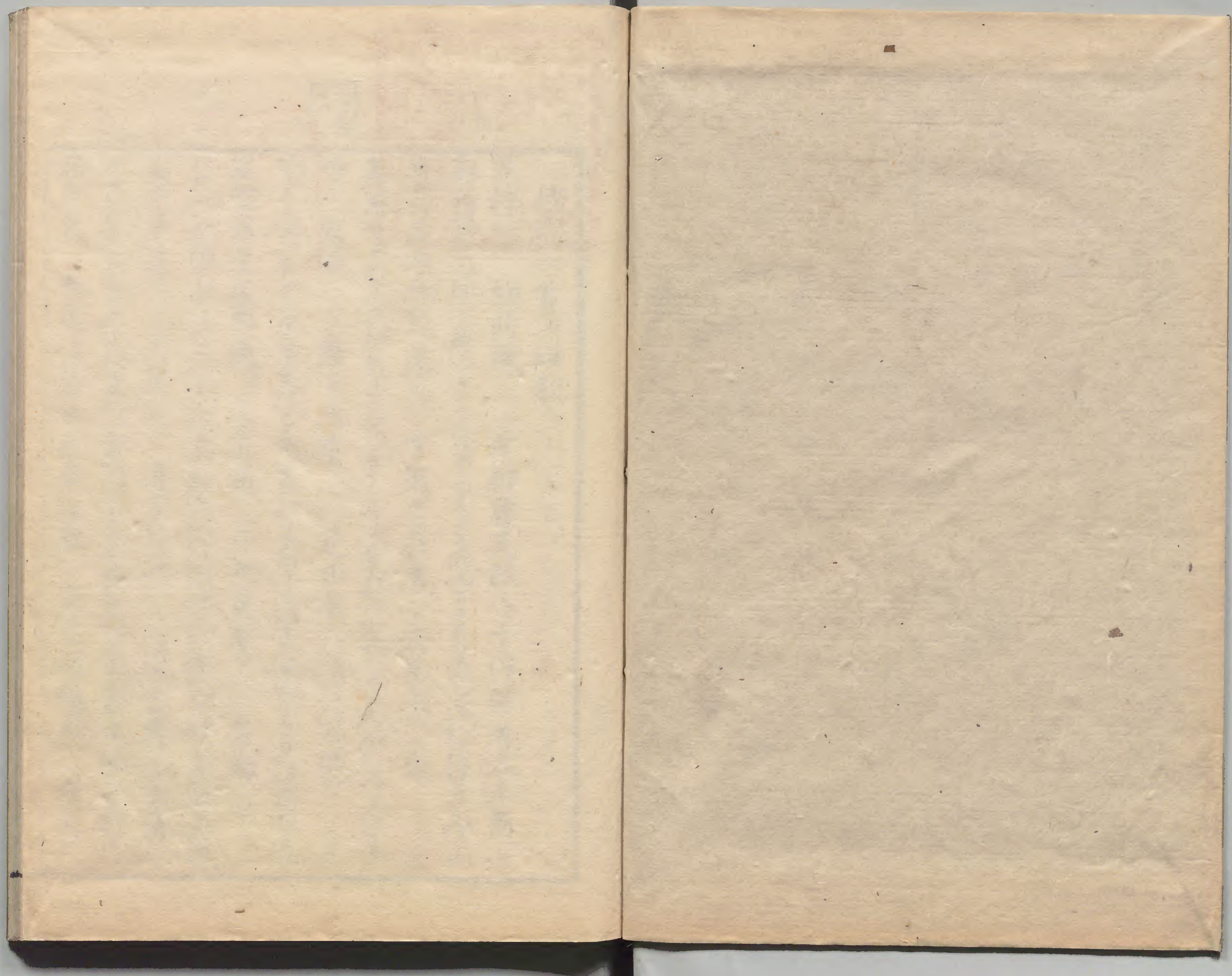
十九下

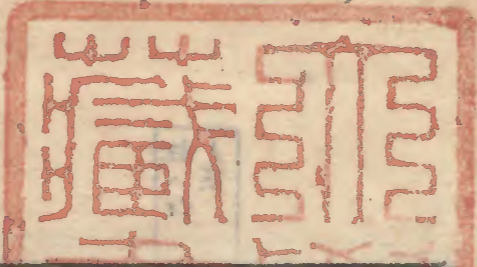
			二〇	和書門
		三	四	
	五	八	六	
三	二	三	八	
冊	架	函	號	類

庫	文	閣	内	
三		二		和
三		四		書
函	三	三		
一	二	六		
架	冊	號	類	

内閣文庫	
番號	和 20436
冊數	32 (30)
函號	263 43







治ヲ治
三限

挽歌 一首并短歌

天地之 初時後 宇都曾美能八十伴男者大王雨

あめつものけいめのとさゆうつものやそものとおほさみふ

麻都呂布物然定有 官雨之在者 天皇之 命

あそつものさだめつるつそやあれはおほさみのみこと

恐 夷故 國乎治等 足日本 山河阻

かこみいささるるんをくさむとあひさのやまのけはなり

風雲爾言者雖通 正不遇 日之累者 思戀

かぜのねんごとかかるとたふあるひのなとなればさみい

氣衝居雨 玉粹之 道來人之 傳言雨 吾爾

いさづきをもたたまほのみちくるいとのづてごにこれに

語良久 波之伎餘之君者比來 宇良佐備氏 嘆息

ろくろとかくきほりりひのなきと、又按字字を孤弓別名又本弓とされ、
孤の字と用ひり、かきほり瓜の下引の字と取せしむる

反歌二首

遠音毛君之痛念跡聞都禮婆哭耳所泣相念吾者

ごちとあきみみながげくとさつれねのうらなゆあひおひよられ

痛念ハ我とこそかろ

世間之無常事者知良牟牟情盡莫丈夫爾之氏

よのちのつねなきことハさるらんをそつくとをなますらをふりて

右大伴宿禰家持吊聲南右大臣家藤原二郎之喪慈母

患也五月二日 南家之續紀勝宝元年四月以大納言後二位藤原朝

臣豊成拜右大臣トイゆ二郎トイテハきられ

霖雨晴日作歌一首

宇能花宇令腐霖雨之始水逝縁木積成将因兒毛我母

うのやなごころすあめのはつちまよるこつみなたてよらんこもこのも

長向修くおの子と腐しむるをよめをまはしのかきまらるこを

始の字をなご逝ハありてはつちまよるをあらハ逝ハ途のほちまらるこ

指訓ハさやうあまづくはつちまあらん考づくこづくハまサ、けあは

おしほらちよるはつちまらるここの路のり、獨見江水浮漂糞怨

根貝を不依作哥とあまをまらるこづくハ俗ごみまらるこ此法の略

サハく世の向さくハよるこつくん席

見渙夫火光歌一首

鮪衝等海人之燭有伊射里火之保爾可将出吾之下念乎

まびつくとあよのともせるいぢりひのはよいでまんわがまらまひを

考云まびつるとあり、上ハほとつくん席の

なほらんかむ持て自らといひしこそい度絶とせむ

右一首守大伴宿禰家持作之

朝露之多奈引田為雨鳴鴈乎留得哉吾屋戸能波義

あさぎりのたぢびくたぬちんかゆととめえんつむわづのたま

原のうねを惜しめてまきの敷いむらうとめぬとよまぬの

契仲たの復よりくちかふこゆきしこまよをかり存よとく

皇後のほみづらんとよまきのふよりうつくしきあつたさづと

とせまがしほまこととくたあつふじあくと

右一首歌者幸於吉野宮之時藤原皇后御作但年月未

審詳十月五日河邊朝臣東人傳誦云雨 十月以下十四卷に

本方のあま子属るは湯之は日未人が家の宮もるとは御とくしはあつと

是日本之山黄葉爾四頭久相而将落山道乎公之越麻久

万解十九下 五

あひきのやものかみもよまづあひてちんちんちんちん

まゝらのあはとづれの雲もとりにあつとありこえとくは越ん

とりふもり

右一首同月十六日餞之朝集使少目秦伊美吉石竹時

守大伴宿禰家持作之 儲下之ハ術文ハ目録みたり石竹の下之の

まゝとく

雪日作歌一首

此雪之消遺時爾去来帰奈山橘之實光毛將見

このゆきのけのこもとてたにゆきのままたちのぶのてるとも

まがけのこのをまあへてあひまのらとちをさつとつと

といつとちとつと

右一首十二月大伴宿禰家持作之

大殿之此廻之

雪莫踏禰

不零

おほとのこのもほりのゆきなみろねまばくもあらせう

雪曾 山耳爾零之雪曾 由米縁勿人哉莫履禰雪者

ゆきがやまのこにふりゆきぞゆめよるなしをまみろねゆき

そくちりハ六段のえくちをりまづくハ段てこよるれ人ハハセく

アハまよりをづまうとそえ

反歌一首

有都都毛御見多麻波牟曾大殿乃此毋等保里能雪奈布美曾禰

ありつしみてまむろおほのこのわくほりのゆきまみろね

あつろをりといつるそくち多

右二首歌者三形沙彌承贈左大臣藤原北卿之語作誦

北ヲ此ニ誤

百解十九下 六

採ノ極ニ誤

之也聞之傳者笠朝臣予君復後傳讀者越中國掾久米朝臣廣繩是也 北卿ハ房前マ也北を々本此ニ誤元唐をよらて

政より語の下作と元唐をよ依は

天平勝寶三年

新年之初者彌年雨雪踏平之常如此爾毛我

あつろをりゆきゆきのゆきまみろねかくにこの

常かくあしハハ此とてよる系高せん多とねふ

右一首歌者正月二日守館集宴於時零雪殊多積有四

尺焉即主人大伴宿禰家持作此歌也 積尺有四寸とろが

かく送るるまよ例

落雪乎腰爾奈都美氏參来之印毛有杳年之初雨

ふるゆきをこになつてまみろねあるのこのはめ小

卷十三 友をさくふまづて、雪はるのあひぶきをまづまゐるをさぐ
いて、詠来し事より、ちりしあふひ、まわひしうれき、まゐる
あつと教ふ

右一首三日會集今内藏忌寸繩麻呂之館宴樂時大伴
宿禰家持作之 大の上一本守のまゝ

于時積雪彫成重巖之起奇巧綵發草樹之花属此掾久
米朝臣廣繩作歌一首

奈泥之故波秋咲物乎君宅之雪巖雨左家理家流可毋
なでしこいあまそとくそのをこまみのいのゆきのいそほまきけゆるがし

雪と巖のゆくゆりそゆるまよまの花とをどつとあてたつこふ
より、かくよめるこ

遊行女婦蒲生娘子歌一首

雪島巖雨殖有奈泥之故波千世爾開奴可君之挿頭雨

ゆきしまのいそほまたてるなでしこいよれまのぬいそよみのがむいりに
雪島、池の中嶋、まきの株ゆるをいさるん、右向、挿頭、雨、花と雪と
移くよめるこ、このぬい、まよとあれしといふ

于是諸人酒酣更深鷄鳴因此主人内藏伊美吉繩麻呂
作歌一首

打羽振鷄者鳴等毋如此許零敷雪爾君伊麻左米也毋
うちきぶり、うらなくとくかくばうり、ふりくゆきし、こみいまそめやも

いまそめや、いふまゝんやん

守大伴宿禰家持和歌一首

鳴鷄者彌及鳴杼落雪之千重爾積許曾吾等立可匹禰
なぐり、いよとさなげど、ふるゆきのちよつめとら、われちがてね

まきいさるるきつばさうのばとほりうたちがねいさちよ不堪いひの
いふたさうと惜うくまき新くもるもとちよかこちくいつう

大政大臣藤原家之縣アゲタノス犬養命婦奉天皇歌一首 アサヒノヒメ 縣犬養

の娘い元正聖武廢帝紀におよぬ此天皇いづれをいふももし知れ

天雲守富呂雨布美安多之鳴神毛今日雨益而可之古家
米也妹

あまぐいをはりにふみあたしちるかこしけけまきさうてかこけめやも
宣去云ほろは古より知味雷賑散とあまゆきさうてくまをさうてけりし
といふ命婦大御前さうてけりしけりしきりしけりしけりしけりしけりし
なり

万解十九下

右一首傳誦祿久米朝臣廣繩也

悲傷死妻歌一首并短歌 作主未詳

天地之神者無可禮也愛 吾妻離流 先神鳴

あめつものかみはなりのれやうらふらさわつたまさこのるいづるかふかのり

波多城孀携手 共将有等 念之雨情違奴 将言

はたをめてさうていづもにあうとあひいにさるたがひぬいせん

為便將作為便不知雨木綿手次肩雨取掛倭父幣乎手雨

ませんまへまらにゆふいさをかこりかけまづぬさをてふ

取持而 勿離等 和禮波雖禱卷而寢之 妹之手本者

とりまけてなまげそとわれいのれがまきさてぬいむがたまをい

雲雨多奈妣久

くもにたまひく

父ヲ父ニ
幣ヲ幣ニ
二程

なすれやハちかあるのこ、吾妻さるるハ死と云、光神ハ枕詞、此妻のち
を機娘ハシメとソレハ、けしものハ身もるるものされば雷の鳴りしやうい
づけり、右事紀ナリノ新幡ハタ戸辨ト神代紀ナリノ栲幡ハタ千チ比賣ヒメと云ふゆゑ、
とらぬぬとて名とせしむるべきよし、射解考ナリハ、又作取ぬ
ふ、六月のなりを、めくよとて、いづれば、はれの河を、かかれり、
づ、さうハ、なう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
むと、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
ぶの、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
幣ハタと、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
天アマ妙タカと、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、

反歌一首

寤爾等念氏之可毛夢耳爾手本卷寢等見者須便奈之

うつくしおひいて、いぬのこ、たわとま、さぬ、みる、は、と、な、り

和ワ二句ハ神カミまを、さ、め、さ、す、の、秋アキも、あ、れ、と、終ハシり、河カハ念ネハ、流ナり、
ら、く、未ミハ、ま、あ、の、さ、さ、り、る、ら、ん、ら、ん、ら、ん、ら、ん、ら、ん、ら、ん、
よ、り、と、改カて、さ、う、の、清スミべ、い、の、秋アキが、し、と、是コノ、我ワの、こ、と

右二首傳誦遊行女婦蒲生是也

二月三日會集于守館宴作歌一首

君之往若久雨有婆梅柳誰與共可吾蕩可年

きみのゆき、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
き、二、さ、う、ゆ、き、け、き、や、う、ぬ、と、よ、り、梅ウメと、柳ヤナギと、
れ、と、一ヒトつ、ら、い、る、さ、う、り、が、づ、ら、い、の、柳ヤナギと、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、

右判官久米朝臣廣繩以正統帳應入京師仍守大伴宿禰家持作此歌也但越中風土梅花柳絮三月初咲耳

詠霍公鳥歌一首

二上之峯於乃繁雨許毛爾之波霍公鳥待騰未來奈賀受

許毛の下瀬の里の浮きてこそりいふまじりてつるのさざらん先人
云許毛の下里と脱之の下波行々しくこわふりつるつる卷十八二上の
ゆふりゆるほくさくさくしつらぬちよささつせむ

右四月十六日大伴宿禰家持作之

春日祭神之日藤原太后御作歌一首即賜入唐大使藤

原朝臣清河参議後四位

これハ遣唐使のるる春日の地ふさく
神とあつらふり之此時春日の神社にいまよとてつるれ二月十日の祭
のちよふあつらひ後紀清河贈太政大臣房前藤原四子也より天平勝宝
二年後四位下藤原朝臣清河と大使とて清河唐國に留るる十余

万叶十九下 十

年つひは唐國を卒るより久め古本参議の九字の小字を後人
のちかへたれば除べ

大船爾真梶繁貫此吾子乎韓國邊遣伊波敬神多智

おほぶねまかちまねぶこのあをからくふへやういそくうみたそら

吾子の下字古本等ふゆるあぶ吾子ハ清河ハ皇后のゆきよめ
甥とれいそくくこのまじり

大使藤原朝臣清河歌一首

春日野爾伊都久三諸乃梅花榮而在待還来麻泥

かしのぬよいつくみむるのうめのいささのるてありあてかつわくるまで

三諸ハ借字をて清室を神といふるあとのうめの句ハ皇后の清室と申
せり梅の花のゆく栄えくくく言まのり

大納言藤原家餞之入唐使等宴日歌一首 即主人御作之

契仲之此大納言ハ眞名ヲ未考ス云々仲麻呂ナルト云々古本即
主人ハ子の六子の小者ナリ

天雲乃去還奈牟毛能由惠爾念曾吾為流別悲美

あまぐもものしきかつかんものゆきよおもひがづのすむわかれのまじ

やハ佐東もそのなれはく冠らせりものゆきま物なづのまじ

氏部少輔多治真人土作歌一首 古今本古下誤拾遺本古下傳

政、後紀天平十二年正月正六位上多治比真人土作後五位下を授りて
ゆ治の下比を脱せり

任吉爾伊都久祝之神言等行得毛来等毛舶波早家無

きみのくにいつくまうりぶかみごとくゆくくとくもふねハちやけむ

神々等の等ハアノまき又かくいんふみ一息ながのんを祈
まことけ何の後のとくけりすもねまらんとく此を神ハ海原の

船とらりふせはえき丸なづのいつぶの神といはばの船まらんふハ
ちやけむ

大使藤原朝臣清河歌一首

荒玉之年緒長五只念有児等爾可憐月近附奴

あはたまのぢのちながくわごまらんこころごとくばいさちのづれぬ

年月を思ひこころは思ひおぼむる思ひあはれをかく思ひもあはれり
思ひもあはれり思ひもあはれり思ひもあはれり思ひもあはれり思ひもあはれり

思ひもあはれり思ひもあはれり思ひもあはれり思ひもあはれり思ひもあはれり

思ひもあはれり思ひもあはれり思ひもあはれり思ひもあはれり思ひもあはれり

天平五年贈入唐使歌一首并短歌作主大使ハ多治比真

人廣成之考五考九ノ此時のありし也此ましの口字古本ナリ

虚見都山跡乃國青丹與之平城京師由 忍照難波爾

そらまつたまのくふあまをたよりたがらのみやとゆわくすたふふよ

上ラ古二
撰

久太里住吉乃三津爾船能利直渡。日入國爾所遣。
 くだりもみよのちのこつふおのめたわりのいるくらへつらやう
 和我勢能君乎懸麻久乃由由志恐伎墨吉乃吾大御神。
 わがせのこみよをがけまきのゆーかこまもみよのちのわのつらやうか
 船乃倍爾字之波伎座船騰毛爾御立座而。佐之與良年。
 ふなのまうーをこいまいふまごしにみたーまうてさーよらお
 磯乃崎し許藝波底年。泊爾荒風浪爾安波世受。
 いそのまごしこまごしてんとまうごまにあらうかぜさこにあせ
 平久率而可敞里麻世毛等能国家爾。
 たひららくおてかつりませそこのまへ

日の入國ハミヨウノコトイハルカクゾウシノ津國ナリ廣國ハツク
 勅書ハ致書日没處天とナリウラメホ六勅書トイフカ
 勅書ハ致書日没處天とナリウラメホ六勅書トイフカ

万解十九下 十一

日何の人の莫人神船の船を本はしよまひつらよらおのまへ
 外まう磯のまごしと大御神とちの船の船を本はしよまひつらよらおのまへ
 道引まをしと大御神とちの船の船を本はしよまひつらよらおのまへ
 船の上のまごしとあらうて舟の船へ船騰毛ハ船體へあてらよらおハ伊
 吉の大神まをしとらう又ひまおゆらまをしとらうとてまをしとらう
 くくうーたまうぬ本國部命とあればくくうとてくくうとてくくうとて
 反歌一首
 浪邊波莫越君之船許藝可敞里来而津爾泊麻泥
 おさつたまうたまうたまうたまうたまうたまうたまうたまうたまう
 越ハまをしとらうたまうの弊古祖志良大系まをしとらうたまうの船と浪ち越
 とよまをしとらうたまうの越ハ起の過つたちをみてハたまうらうの
 阿倍朝臣老人遺唐時奉母悲別歌一首

便附大帳使取八月五日應入京師因此以四日設國厨
之饌於今内藏伊美吉繩麻呂館餞之于時大伴宿禰家
持作歌一首

之奈謝可流越爾五箇年住々而立別麻久惜初夜可毛
三たけのころこしにうせをみくしてだちまのれまをきよひうも

まなごころの林内、おのほりも既満六載之期とちまの六年のりつといひ
今ハまごころく五年のみつをいり、まなごころいさよいつて
まなごころのころこしにうせをみくしてだちまのれまをきよひうも

五日平且上道仍国司次官已下諸僚皆共視送於時射
水郡大領安努君廣島門前之林中預設饌餞之宴于時
大帳使大伴宿禰家持和內藏伊美吉繩麻呂搥盃之歌
一首 繩麻呂のさばくこにそれしり

玉拵之道爾出立性吾者公之事跡于負而之將去

たまがこのみらにいでしちゆくこれいさみのことをもおしりゆりむ

前説事法、即字のぬくまをいへり、この儀を一人の國の政官まれば、公
が國としての政務の事跡を、まなごころの中とんとよめることいそれま、まなご
ま古より神代各對立而度、事_{コト}ノトキトハ、夫婦の交を終つての
る、いとおしり、まなごころの儀、越中國よりまなごころの時儀を一人の路
別のまなごころの儀、事_{コト}ノトキとハ、夫婦の交を終つての
てゆりむとよめるまなごころの儀、越中國よりまなごころの時儀を一人の路

正稅帳使掾久米朝臣廣繩事畢退任適遇於越前國掾
大伴宿禰池主之館仍共飲樂也于時久米朝臣廣繩
芽子花作歌一首

君之家爾殖有芽子之始花宇折而挿頭奈客別度知

きみのがりやうあしむるまじのたはまをりもてかぢもたはむわのるも
かぢもたはむるまじのたはまをりもてかぢもたはむわのるも
大伴宿禰家持和歌一首
立而居而待登待可禰伊泥氏来之君雨於是相挿頭都流
波疑

たちてあそまてごまぢかぬいでこゝろみまゝにあひかぢつるはぢ
唐鏡のあぢつと結うぬく池まの破まて出まらぬまをぢごか
かつしよん

向京路上依興預作侍宴應詔歌一首并短歌

蜻島 山跡國乎 天雲雨 磐船浮等母爾倍爾

あまらうまやまとのくにをあまぐもにいよねをぢごもふへま

真可伊繁貫伊許藝都退國看之勢志氏安母里麻之掃平
まかいまぢぬさいとさつとくにみしせてあそめまはらしたひらげ
千代累彌嗣繼爾 所知来流 天之日繼等神奈我良
ちよかそねいやつぢよまらうあめのひつごもかぢなづら
吾皇乃 天下治賜者 物乃布能八十友之

わがおほさみのあめのしたをそめたまはむものよのやうさの
雄等撫賜 等登能倍賜食國之四方之人字母安天左波
をたがてたまひどのへたおしをそくにのよものひとさあてさは
受懸賜者 後古昔無利之瑞 多婢未禰久申
ぢめぢみしまつぱいふゆたをりーまろーたぢまおくまをー
多麻比奴手拱而 事無御代等 天地日月等登聞仁
たまひぬたおぢごもなごみよとあめつらつさしともふ

萬世雨 記續年曾 八隅知之 吾大皇 秋花

よるづつたにとつづつとみいわがわがこころあまのそよ
之我色色雨見賜 明米多麻比 酒見附 榮流

きついろくよみたまひあまをらめまひさうみづささこのゆる
今日之安夜雨貴左

けみあやよたさそ

大意よ發船うづと、神武紀天磐船よあまの飛降る者あり
余勢よ彼地必天業を恢弘して天下光宅よ是べとたづね六合
の中心宇この飛降るの曉速日といふにいつる詞をかりて、
しすいせきとつづつとみいわのしははるる詞をくりて、
あまのり、天降る、安天左波愛、空を、天の夫の徳を、あまの

光仁紀宣命よ、孫麻之大臣之家内子等母波布理不賜母

し、はつたにまじり、ばさううたまひん海成物法むづのあまのお
あまのり、天降る、安天左波愛、空を、天の夫の徳を、あまの

きついろくよみたまひあまをらめまひさうみづささこのゆる
今日之安夜雨貴左

けみあやよたさそ

大意よ發船うづと、神武紀天磐船よあまの飛降る者あり
余勢よ彼地必天業を恢弘して天下光宅よ是べとたづね六合
の中心宇この飛降るの曉速日といふにいつる詞をかりて、
しすいせきとつづつとみいわのしははるる詞をくりて、
あまのり、天降る、安天左波愛、空を、天の夫の徳を、あまの

反歌一首

さかみ 天のつとむづのそよとつづつとみいわのしははるる詞をくりて、
あまのり、天降る、安天左波愛、空を、天の夫の徳を、あまの

秋時花種爾有等色別爾見之明良年流今日之貴左
あきのなをくもくあねだいろもにみしあきらむるけのくよと

為壽左大臣橘卿預作歌一首

古昔爾君之三代經仕家利五王波七世申禰

いふしよこみのみあてつるなめわがおちよもいばりよあをさね

諸王の母夫人縣犬養ハ天武持統文武の三代は使をりあ

かくいふあふそく天白とさくさくおむそくははえつてわ

葛城まさればおがさきといふははえつてはなより七代改申し

あつてはなより七代改申し

十月二十二日於左大辨紀飯麻呂朝臣家宴歌三首

續紀天平元年八月後五位下と後室字元年六月左京大夫同月

万葉十九下 十七

去之
人保

左大弁とゆ贈正三位大人の孫式部大補正五位下古麻呂の長子也

手束弓手爾取持而朝獵爾君者立去奴多奈久良能野爾

たつゆみてくじめちてあやがゆよこもいたしぬたなくのふ

たつうらひもは極るあよりいほらりの様の弓といふは奉十五手束

杖脇またぬくとあもるもふも極くつくといひあ立去一本立之

みそよしとらたきくうハ神名帳山城縣喜郡棚倉神社もは

久遠京の河の方とあねはそくたき

右一首治部卿船王傳誦之久邇京都時歌未詳作主也

明日香河河手清美後居而感者京彌遠曾伎奴

あまのなばかといふをよみおとれあてくよれがやいやはぞきぬ

淨法原より藤原の都遷されし時花をよみ居くみり人をもの

便りも遠く来し時よみてやれるまもどし河戸と清もは

地のくろくらのよふいよひのこゝろ遠ざかぬ遠ざかるといふ句、る伎歌の
極くちかき年申ふいつくし延け退くこと

右一首左中辨中臣朝臣清麻呂傳誦古京時歌也

十月之具禮能常可吾世古河屋戸乃黄葉可落所見

かくなづとまぐれのつねのわがせこがやどのをみぢをちりぬべくこゆ

まぐれの常のさうらうりりさね、ちりぬとちりぬと、よおま常ハ零の

浮るどーといふ、ふれうはれがう

右一首少納言大伴宿禰家持當時曠梨黄葉作此歌也

壬申年之亂平定以後歌二首 天武天皇元年壬申中大友皇

孫大友皇のふよりくの乱

皇者神爾之座者赤駒之腹婆布田為乎京師臨奈奈之都

おちをみかきこにーまやいあのだまのくらぶたををみかきこなりつ

おこまのさうらぶと、おちのくらぶと、よ、字鏡旬波良波比由久と

右一首大將軍贈右大臣大伴卿作 後紀と考ふ、大宝元

年大納言と、薨贈右大臣とあり、御行て

大王者神爾之座者水鳥乃須太久水奴麻宇皇都常成都

おほまみハのこにまやいあのだまのくらぶとみぬとこやとちりつ

まぐれハ鳥ハ、まをみぬと、まをみぬと、あ、う、ま、あ、

ちりつ

作者未詳

右件二首天平勝寶四年二月二日聞之即載於茲也

閏三月於衛門督大伴古慈悲宿禰家餞之入唐副使同

胡麻呂宿禰等歌二首 續紀天平九年九月後六位上大伴宿禰

枯信備後五位下と授る、宝龜八年八月大和守後三位大伴宿禰

古茲悲蕩しゆ、胡麻呂、天平十九年正月正六位上大伴宿祢古麻呂、後五位下と授し、そのかきし、久麻呂、

韓國爾由伎多良波之氏、可敬里許牟、麻須良多、家乎爾、美伎多氏、麻都流、

からくにゆまたら、はして、つゆこい、ますらたけをに、みさたてまつる、

たたり、はま、つゆる、は、つ、さ、そ、と、つ、が、お、と、

右一首多治比真人鷹主壽副使大伴胡麻呂宿禰也、梳毛見自屋中毛波可自久左麻久良多、婢由久伎美乎伊波布等毛比氏、

くそみ、ゆめ、ち、は、の、ど、く、ま、くら、た、び、ゆ、く、ま、と、を、い、ま、り、わ、ひ、て、

他、ま、い、も、く、人、の、お、あ、り、さ、さ、る、ゆ、ま、は、る、お、の、庭、も、う、ど、づ、う、振、と、り、お、い、り、ま、の、ま、ご、と、い、り、あ、な、り、振、り、し、ゆ、の、庭、と、掃、り、と、い、り、

作主未詳

右件歌傳誦大伴宿禰村上同清継等是也

勅後四位上高麗朝臣福信遣於難波賜酒肴入唐使藤

原朝臣清河等御歌一首并短歌 孝德天皇の御製也、何よ依よ御の

下製の字と脱せり、續紀延暦八年乙酉散位後三位高麗朝臣福信

蕨、福信、武藏国高麗郡人也、

虚見都山跡乃國波、水上波地往如久、船上波、床

そら、つ、や、ま、の、の、た、い、み、づ、の、へ、つ、ち、ゆ、く、こ、と、く、お、ね、の、へ、は、こ、ふ

座如、大神乃、鎮在國曾、四船舶能倍奈良信、

も、る、ご、い、お、ほ、の、みの、い、ま、つ、く、お、ね、の、お、ね、の、な、ら、む、

平安、早渡来而、還事、奏日雨、相飲

た、ひ、ら、け、く、を、や、も、つ、あ、さ、そ、か、つ、め、ご、ま、を、さん、い、よ、あ、ひ、の、ま、ん

酒曾斯豐御酒者

三つぞみのこよみさハ

鎮の字古洲とづひとあれどさるに在の字解れりいさて河さ例多
たれぶともいさつて河さるに伊波敷津さるにあり四船の大使副使判
官主典の所んを六節度使の酒と賜清さるにさつづの清さるをてか
ささかぞねさるにささかぞねさるにささかぞねさるにささかぞね
酒が此とよみさるに酒が此とよみさるに酒が此とよみさるに

反歌一首

四船早還来等白香著朕裳裾爾鎮而將待

よつのおねをやのつめこととさつづのつけわがものもそにいをひささるむ

卷三奥山の賢本の枝は白香若本海とあつてくささよみて本海は白香よ
いられは白香さるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるに

よさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
まひて御商までささかぞねさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるに
さるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるに
さるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるに
白香著のさ大平が考ふささかぞねさるにさるにさるにさるにさるにさるに
さるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるに
のささかぞねさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるに
紙のささかぞねさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるに
ささかぞねさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるに
は云さるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるにさるに

まうがといふ白髪の例は同じく、程々考べりて、

右發遣勅使并賜酒樂宴之日月未得詳審也

為應 詔儲作歌一首并短歌

安之比奇能ハ峯能宇倍能都我能木能伊也繼繼爾松根
あじ比奇のやつものうへのつがのさのいやつぎくにまつがね
能絶事奈久青丹余志奈良能京師爾萬代爾 國所
のたゆもいふくあむたよりけさのみやまよつぎくにふちう
知等安美知之吾大皇乃神奈我良於母保之賣志氏豐
てんごやとともわづらほさるのかんかめらおそほりめてさあ
宴見為今日者毛能乃布能八十伴雄能島山爾 安可
あじのみせははるものよめそとのもの志まやまにあの
流橘宇受爾指 紐解放而 千年保伎保伎吉等餘毛之

はさハ多くの事より一集申ハつもの揚つてたきよあり、松根をく
進いろびるも、あはれものせん料はおろ、たゞせよ、此とよ園看之勢
志氏もあまの同、あまハ林申海池の中をながん、あくる橘ハ赤ら
橘ともあまのふの色分けるといふ、うた、まを、冬十三もあうぐ雲
聚山カケ蔭といつうずまて、いふいづ、此よりあまの照れる橘宇
受みまハはまつハまつてあつちとあり、先人云、あくる橘ハ心福なる、
山橘漢名平地木、又小青樹と号、古今系業雅抄ハ山橘ハ世俗やぶら
う、いふ、髪そこの時山若より、うた、まを、いと、程考べ、但
とまえて、たゞ、夢中、まて、宴樂の時ハ但ともまら、祖とせし

山又五
二保

さまたおもしろ、保伎吉むさしとまねりて中略せるは、神功紀
清前、このみきいそつみさやうすくののりことよにいまいそ
すまうまみくこのとよ保根保根かとほ保根とほりまつりこ
みさぞあまをせそとわ、立去吉の字、ゆかざり、言のほ
ふ、古子記倭建命のほ、言動イヒトコト為御室樂しといふ、考、一、惠
良惠良よ、神代紀に喙樂をまつくと、訓、字、ま、喙同喙と、
喙、大笑也と、と、本右老奇の終、江説二字を、後人の加、一、

反歌一首

須賣呂伎能御代萬代爾。如是許曾見為安伎良目米立羊
之葉爾

よめらぶのみえらつたがごとくみあまらめだつこのほ小
うあまらめらつたつた

一、万解十九、一、サニ

右二首大伴宿禰家持作之

天皇太后共幸於大納言藤原卿家之日黃葉澤蘭一株
採取令持内侍佐佐貴山君遣賜大納言藤原卿并陪從
大夫等御歌一首 家の上卿の字を、かみ服、目録に依り補、
の上製のそ、殺せしめ、又太后の流あり、と、ご、わ、く、ぞ、
天皇ハ孝謹太后

光明后之澤蘭ハ和名抄云、陶隱居大十州注云、澤蘭 和名佐波阿良木
一云阿加未久佐

生澤傍故以名之、或云大和国三十七種澤蘭十五斤、或人紫ハ藤袴
のめ、て、花ハ白く、芥のみ、か、る、め、と、あ、と、海、草、と、い、う、
考、一、佐、々、山、氏、ハ、雄、畧、紀、ハ、近、江、狭、々、城、山、君、と、い、ふ、
後、紀、天

平十六年八月蒲生郡大領正八位上佐々貴山君親人、後五位下と
授、と、る、と、ゆ、も、此、姓、と、ゆ

命婦誦曰

命婦誦曰

此里者繼而霜哉置夏野爾吾見之草波毛美知多里家利
このまほいつさきてまほやおくなつのにまがみとさほまみちりこつたり
夏の野あてまほにんませまほひまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ
あつまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ

十一月八日在於左大臣橘朝臣宅肆宴歌四首 古のら
御製まほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ

余曾能未爾見者有之乎今日見者年爾不忘所念可毋
よそのまほにみてあひまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ
此家まほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ
たまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ
まほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ

右一首太上天皇御歌 聖武天皇

牟具良波布伊也之伎屋戸母大皇之座牟等知者王之可
麻思乎

むぐらふいやはまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ
まほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ
まほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ

右一首左大臣橘卿

松影乃清瀆邊爾玉敷者君伎麻佐牟可清瀆邊爾
まつかげのひよひまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ
まほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ

まほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ
まほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ
まほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ

右一首右大臣藤原八束朝臣

天地爾是之照而吾大皇之伎座婆可毋樂伎小里

あめつちにならばいりてわづおほいそむまはせむたぬるさむと
ニミオトシノハバ橋之の宅ノ幸セヨムノハ小里の小ハオモシヤクノ小ハカ
 比宅の多トシノ今日天皇の幸ムルコトオモシヤクノ小ハカ

右一首少納言大伴宿禰家持 未奏

二十五日新嘗會肆宴應 詔歌六首 職負令云大嘗 謂嘗
 新穀

以祭神祇也朝則諸神之相
 管祭夕則供新穀於全博也 神祇令云凡大嘗者每世一年国司行事以外
 每年所司行事 謂所司者在京
 諸預祭事者也 及ハ大嘗一也ハ一度又云ト大嘗といハ
 毎年又云ト新嘗ト云れトナリハ大嘗といハ又新嘗といハ
 てわづちとスルニハ肆宴ハ大嘗會早ぬるあくる日群臣を召て
 遊宴し終る也

天地與相左可延牟等大宮宇都可倍麻都禮婆貴久宇禮
 之伎

万葉十九下 廿四

あめつちとあしとをさむおほみやをつまみればたすくらけこさ
此ハ天比ノ大津世とけりヨスルアサノトノカヘ大宮とつとまつるとハ
 大嘗宮と送る事トは奉る事トナリ

右一首大納言巨勢朝臣 奈麻呂之 後元勝宝五年三月辛未
大納言後二位兼神祇伯造宮卿巨勢朝臣奈麻呂菟小治田朝小
 徳大海之孫淡海朝中納言大雲比登之子也ノスル也

天爾波母五百都綱波布萬代爾國所知牟等五百都々奈
 波布

あめつちといほつあひよまらぶよまらぶよまらぶといほつなまら
天よりいのちハ助舞天ハ禁中と云々ハ大嘗宮ハ海連と云々
 をつらりといつらつらと云々ハ五百ハ數多といハ海のたまと云々
 世大津國と云々ハつたにたると云々ハつたにたると云々ハ

天と大嘗宮の屋根のあり、上の方とほまうて天とよみ、高天原の十本
言知るとはたらしむ、二の句は、も宮の上の方と信ひ固め、繩を以て大
敷祭神の綱根あり、神代紀に、天日御宮より、以千尋栲繩結為百
八十紐とあり、百八十紐といふを以て、五百つといふを以て、
結固め、繩の多と近し、つ、神代紀のほまうて言のな、近し、
大嘗宮の繩の多といふ、是の繩の多、神代紀に、百八十紐とあり、
似古歌而未詳、及人の多入、おき、

右一首式部卿石川年足朝臣、後紀天平十一年、出雲守
五位下と見え、室宇六年九月御史大夫正三位兼文部卿神祇伯耆
十二等石川朝臣年足薨時七十五年是者後岡本朝大臣大紫蘇我
臣年羅志曾孫平城朝左大臣後三位石足之長子也といひ、
天地與久萬氏爾萬代爾都可倍麻都良年黑酒白酒乎

あめちとくいさきまでによろづつあつらんくろきちろきを

大嘗宮の黒酒白酒と云ふるも、酒といふ、大嘗の事ある所、黒酒と
は、常山の所と入る、酒、又、胡麻の粉と入る、酒、式、妻、
使まつらん、酒を、

右一首後三位文屋智奴麻呂真人、後紀勝室六年四月後
三位文屋真人珍勢為攝津大夫と見え、

島山雨照在攝守受爾左之仕奉者卿大夫等、
此ままた、た、ら、じ、さ、う、ぞ、い、さ、い、つ、つ、あ、つ、つ、ま、つ、つ、ま、つ、つ、ま、つ、つ、ま、つ、つ、
よ、よ、あ、あ、女、可、流、信、い、よ、れ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
字、解、れ、る、者、の、名、の、傷、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、
の、語、も、く、つ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、あ、つ、

右一首右大辨藤原八束朝臣

袖出而伊射吾范爾。鬻乃木傳令落梅。花見雨

そなたれていざわのそのようふいませ。こつていぢうすうめのもよみに

此國守新嘗の事を扱く。時宴の後諸卿大夫と誘つる。こつて

つさふ。次の六ふてとらる。袖たれて。空をうよ遊ぶ。とあふ。さへ。梅

とらん。ふをいふんとて。後知る。と。奏けが。江次。弟。才。十。新嘗。會。裝

東次。弟。才。辨。臺。の。四。角。三。面。上。梅。柳。を。植。多。ふ。を。引。と。れ。と。わ。が

そのに。と。つ。み。れ。ば。そ。も。ふ。あ。て。ら。る。と。く。も。た。り

右一首大和國守藤原永手朝臣

天平九年九月後六位上より後五位下と授く。凡そ。室龜二年已間

左大臣正一位藤原朝臣。永手。薨。年。五十八。奈良朝。贈。太政大臣。房。前

之。弟。二。子。也。と。い。ふ。

足日本乃夜麻之多日影。可豆良家流。宇倍爾也。左良爾梅

平之奴波牟

あーびこのやうたひげが。つら。う。あ。や。さ。ら。ん。う。め。を。と。と。ぬ。ん

たのそ。こ。日。養。蔓。と。か。ぐる。と。女。養。は。し。よ。さ。る。ぬ。さ。れ。が。山。下。日。養。と。い。ふ。山

養。と。い。ふ。あり。が。つ。ら。う。さ。ら。か。つ。ら。う。ん。と。い。か。つ。ら。さ。と。い。さ。と。く。か。づ

よ。と。と。い。い。つ。つ。と。い。と。日。養。と。つ。ら。ぬ。く。時。宴。の。侍。る。よ。よ。何。が。梅

と。蒸。と。ん。と。い。ふ。

右一首少納言大伴宿禰家持

二十七日林王宅。餞之。但馬。案察使。橘。奈良。麻呂。朝臣。宴

歌三首

後紀養老三年秋七月始置按察使と云

能登河乃後者相牟之麻之久母。別等伊倍婆。可奈久母在

香

の。と。の。は。の。ち。れ。い。あ。い。び。ま。あ。く。し。わ。つ。も。い。い。が。あ。い。と。あ。い。の。

是十能也。何の由を尋ねては、
添よれをて、まほ山より流る川を
後ふつといふ下りて、ほまおんをのこ
右一首治部卿船王

立別君我伊麻左婆之奇鳥能人者和禮自久伊波比氏麻
多牟

たちわのれさみびいまひとまひと
いまさび去ままの鴨、まま物此
ゆり、和礼自久、言も久ハ之の
とほく、吾りく、
右一首京少進大伴宿禰黑麻呂、
白雪能布里之久山乎越由可牟君乎曾母等奈伊吉能乎

一万解下下 七

爾念

とらゆこのふあくやまをこるゆく
いこのとらひふ、
左大臣換尾云伊伎能乎爾須流然猶喻曰如前誦之也
右一首少納言大伴宿禰家持

五年正月四日於治部少輔石上朝臣宅嗣家宴歌三首

後弘勝宝三年正月六位下より後五位下と授りかんて天應元年六
月大納言正二位兼式部卿石上朝臣宅嗣亮贈正二位左大臣後一
位麻呂之孫中納言後三位弟麻呂之子也とゆ

辭繁不相問爾梅花雪爾之乎禮氏字都呂波牟可母
ことしげあひとさるにらめのまよゆさふまをれてうつらんのも

事繁にまらうじもあつたの人もだつたはつたはつた

母雨
三誤

右一首主人石上朝臣宅嗣

梅花開有之中雨布敷賣流波戀哉許母禮留雪宇待等可
うめのもささけるうたのうにふめらふこいぢもれるゆこそまつこの

程つぢある花のさへ客人と結るるのこそなるの又て多くは言われど
とくちをさうゆめふ雪をとるさんとく程つぢのさるこのくも母と本爾

二誤、活布を多くと改つ

右一首中務大輔茂田王

後紀天平十一年正月無位より後五位下

を授十二年後五位上十九年越中守と久し

新年始爾思共伊牟禮氏乎禮婆宇禮之久母安流可

あたらしきどりのをめでけりおとらにおれをばうれくもあつこの

いふ後改して群てし

右一首大膳大夫道祖王

後紀勝宝八年中務卿後四位上と久し

万解九下 廿八

新田部親王の子也神代紀岐神此云布那斗能加微くみく、別道祖神を
れハまの仙へー

十一日大雪落積尺有二寸因述拙懐歌三首

大宮能内爾毛外爾母采都良之久布禮留大雪莫蹈禰宇

之

おほまのうちにもとふもめづらしくふれるおほゆきなまみそねと

瑞しとさうれ惜しと

御苑布能竹林雨鳥波之波奈吉雨之宇雪波布利都都

みそのよのたなのを雨にうごひすかまむなすこふをゆさひふりつ

まろくさうとん

鶯能鳴之可伎都爾爾保蔽理之梅此雪雨宇都呂布良牟

可

うぐいすのなまこかきつあかりうめこのゆさぶうつらふらむの
かきつ垣内

十二日侍於内裏聞千鳥喧作歌一首

河渚爾母雪波布禮禮之宮乃裏智利鳴良之為牟等已
呂奈美

かきつあもゆさひあけーみやのうちにちどめらくらーあんとあま

あけーと子詞あもぶくろぞ後字あまぶー言せハ之也のほろん

ふらふあけやハあけハヤのこえあんとあまハ渚ハ宮のふれぢや

あけあんとあまはく言せハあまはく言せハあまはく言せハあまはく

言せハあまはく言せハあまはく言せハあまはく言せハあまはく
下、さくゆゆるとかくをさきくよあり

二月十九日於左大臣橘家宴見攀折柳條歌一首

今月十二
月下有

万解十九下 廿九

今奉十二月と旨日録より十八行文と又ゆれハ際より

青柳乃保都枝與治等理可豆良久波君之屋戸爾之千年
保久等曾

あまやまのほつるものちりかづるいさみのたどちとせむことぞ
ほつるものちりかづるいさみのたどちとせむことぞ

二十三日依興作歌二首

春野爾霞多奈妣伎宇良悲許能暮影爾鶯奈久母

あまののにかきたたなびせうらかちこのゆよげようひとあまも
うらなひのめいせむことぞ

和我屋度能伊佐左村竹布久風能於等能可蘇氣伎許能
由希般可母

わづらぬのいさむらたけくさぬおのむさせけいんのせむいのみ

いそいでゆふけり小群竹之かさこころいそいでゆふけりいそいでゆふけり

二十五日作歌一首

宇良字良爾照流春日爾比婆理安我里情悲毛比登里志於母倍婆

うらににてるはるびふひがらあうりこころのりもひふまけのへば

此波楊氏漢語抄云鶻鶻

春日遲く鶻鶻正啼悽惘之意非歌難撥耳仍作此歌式

展締緒但此卷中不備作者名字後錄年月所處縁起者

皆大伴宿禰家持裁作歌詞也 異本左注也

萬葉集卷第十

